



子宮の頸部(入り口)にできる子宮頸がんが、性行為の低年齢化により二十〜三十代で急激に増えています。
子宮頸がんの発症に強く関係するヒトパピローマウイルス(HPV)は自然界のいたるところにいますが、性行為によっ

子宮頸がん①



〈子宮頸がん〉

ます。多くが自然治癒しますが、年単位でゆっくりと異常な細胞が増えていくと、がんとして発病します。子宮頸がんは、がんでは珍しく、発症の経緯がほぼ解明されており、予防もできます。ワクチンで高リスク型のウイルスの感染を予防するので、接種は性行為前の若い年齢でしておくことが肝心で、対象年齢の女子

は珍しく、発症の経緯がほぼ解明されており、予防もできます。ワクチンで高リスク型のウイルスの感染を予防するので、接種は性行為前の若い年齢でしておくことが肝心で、対象年齢の女子

(貝田清隆婦人科部長・談)



中日病院 名古屋市中区丸の内3

の12の3。 ④中日病院 052(961)2491

ワクチンで感染予防を